
仮面ライダーオールスターズDX

桂 ヒナギク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー オールスター ズDX

【NZコード】

N97310

【作者名】

桂 ヒナギク

【あらすじ】

突然、優の前に現れた門矢 士。彼は優にバッклとカードを渡して……

異様な荒野。そこに佇む一人の少女、川島美香。

美香が見つめる先では、沢山の仮面ライダーたちが戦っていた。

「ディケイド……」

美香はそう呟くと、夢から覚めた。

「また同じ夢……」

美香は起き上がり、ベッドから下りた。

「ディケイドって……？」

「コンコン、と扉を叩く音がした。

「美香」

直後に少年が入ってきた。

彼の名は高山優。美香の幼馴染みである。

「あんたまた勝手に人んち入ったわね」

「開いてたからな」

「家宅侵入罪で訴えるわよ」

「冗談つい」

「で、何の用かしら」

「ああ、暇だからデートでもしようかと思つてな」

「で、デート！？」

驚き戸惑う美香。

(優が私をデートに誘うなんて)

「行くか？」

「もち」

「じゃあ外で待ってるな」

優はそう言いつと部屋から出た。

その時、家の外から爆発音が聞こえてきた。

優は驚き、慌てて外に出た。

「何だ！？」

そこでは、沢山の怪物が暴れ回っていた。

「今何！？」

と、家から出て来た美香。

「美香、怪物なんて実在したか？」

その時、二人以外の時間が止まり、門矢 かどや 士 つかさ が現れた。

「今、この世界に危機が訪れている」

士はそう言ってバックルとライドブッカーを優に渡した。

「早く旅立て。お前が戻るまではこの世界の時間を止めておく」

「あの、いきなり何なんですか？ 井上 正大さん」

「俺は門矢 士だ」

「え、じゃあこれは本物？ ていうか意味分かんねえ」

「どうでもいいから早く行け」

士が言うと、二人の前に灰色のオーロラが現れた。

「これつてもしかして……」

「行つてみよづよ」

「そうだな」

優と美香はオーロラの中へ入った。

その様子を遠くから見ていた男は呟いた。

「おのれディケイドめ……」

2・クウガの世界

優と美香がオーロラを抜けた先は、見慣れない町だった。

「優、ここは？」

「クウガの世界かな」

「クウガの世界……か」

「先ずはクウガを捜そう」

その時、二人の前に怪人が現れた。

「リントバ」

「美香、下がつてろ」

優はバッклを取り出して腰に装着した。

「变身！」

取り出したカードを『ディケイドライバー』に挿入し、サイドハンドルを押し込んだ。

〔KAMEN RIDER DECADE〕

「クウガバ？」

「クウガじやねえ！ ディケイドだ！ 覚えとけグロンギ！」

ディケイドはそう言いながらグロンギを蹴り飛ばした。

「ザセゼロバラパン。リントパリバゴソギザ」

「そいつ何て言つてるの！？」

「人間は皆殺しだとよ！」

グロンギは体勢を立て直すと、ディケイドに体当たりをした。

「痛えな！」

ディケイドは反撃した。

パンチ、キックの連打にタックルを決めるディケイド。怯むグロンギ。

「今だ！」

ディケイドはカードを取り出して『ディケイドライバー』に差し込んだ。

「FINAL ATTACK RIDE D D D DECA
DE」

十枚のカード状のホログラムが現れると、ディケイドはそこを通り抜けてグロンギに飛び蹴りを浴びせた。

ディメンションキックをまともに受けたグロンギは爆裂霧散した。

「ディケイド……」

咲く美香。

ディケイドはサイドハンドルを引いて変身を解いた。

「美香、何で知ってんだ？」

「夢で見たからよ」

「そうか」

「それだけ？ なんか他に聞く事ないの？」

「何をふりふりしてんだよ？」

「別に怒ってなんか……。所で、クウガはどうするの？」

「そうだな……。適当に歩き回つてみるか」

「ちょうどいいところにバイクがある」

優は辺りを見渡し、マシンディケイダーを見つけた。

優はマシンディケイダーに駆け寄つて跨つた。

「優、あんた無免許でしょ」

優はポケットの中から免許証を取り出した。

「いつ取つたの？」

「いつでもいいだろ。さ、乗れ」

美香は優の後ろに跨つた。

優はエンジンをかけて発進した。

東京都内的一角。

仮面ライダークウガが一人、グロンギと戦っていた。

「クウガ、ボソギデジャス」

「あ？」

「殺してやる、と言つたんだ」

「こんなところで死ぬ訳にはいかない！」

クウガはグロンギにマイティキックを浴びせた。

「そんなものは効かないぞ！」

だが、反撃を受けて倒れてしまった。

「くつそ……！」

その時、マシンディケイダーが現れ、グロンギに体当たりをした。

「お前の相手は俺だ」

ディケイドはマシンから降りるとファイナルアタックライドを発動してグロンギを粉碎した。

「大丈夫か？」

ディケイドはクウガに手を差し伸べた。

「あんた誰だ？」

「高山 優だ。覚えとけ」

クウガはディケイドの手を取り立ち上がった。

「俺は黒沢 悠輔。助けてくれて有り難うな」

ディケイドはサイドハンドルを引いて変身を解いた。

それに続いてクウガも一枚目の男性に姿を変えた。

3・対クウガ

黒沢家の一室。

「へえ、それじゃ、あんたらは別の世界から？」

「ああ」

「何か信じがたいな。グロンギの仲間なんじゃないか？」

「誰が。俺は仮面ライダーだ」

「仮面ライダー？ 何だそりや」

「気にするな。それより、俺がこの世界で何をするべきか探さなくては」

「黒沢さんを手伝つたらいいんじやない？」

「ならば早いとこグロンギを殲滅しないとな」

優は立ち上がり様にそう言った。

「どうか行くの？」

「グロンギと戦つてみる。そうすれば何か分かるかも知れないからな」

優はそう言つと、颯爽と家を出て行つた。

「私たちも行きましょ」

「うん」

美香、悠輔も家を出て優の後を追つた。

「優の奴どこ行つたのよ！？」

優を見失つた美香はそう叫んだ。

「美香ちゃん、落ち着いて」

美香を宥める悠輔。

その時、グロンギが現れた。

「リントパリバゴソギザ」

「美香ちゃん、下がつて」

悠輔は美香を庇つように前へ出た。

「悠輔さんー？」

悠輔は腹部に手をあてがつてベルトを出現させると、「変身！」と叫び、仮面ライダークウガに姿を変えた。

「クウガバ」

その時、どこからともなくマシンデイケイダーに乗つた優が現れた。

「そいつは俺の獲物だ！」

「優！」

「変身」

優はバイクから降りると、予め装着しておいたバッグルにカードを差し込んでサイドハンドルを押し込んだ。

〔KAMEN RIDER DECADE〕

マシンヴォイスの直後、優は仮面ライダーデイケイドに姿を変えた。

「あれがディケイド……」

「さて、丸焼きにしてやる

ディケイドはそう言つてグロンギに飛びかかつた。

だが、クウガが邪魔をし、更に攻撃をした。

「聞いていた通りだな、悪魔が！」

「恩を仇で返す、か！」

「ちょっと、何してやるのー？」

「正氣か、クウガ？」

「うるさい！」

と、ディケイドの顔面を殴るクウガ。

「そうか。ならば相手してやる」

ディケイドはグロンギを無視してクウガに攻撃を仕掛けた。

顔面を殴り、怯んだ隙に蹴り飛ばすディケイド。

その様子を離れた場所から見ていた鳴沢は呟いた。

「ディケイド、ここがお前の墓場だ」

すると、灰色のオーロラが現れ、キックホッパーとパンチホッパーが出て来た。

一体はディケイドに接近して……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9731o/>

仮面ライダーオールスターズDX

2011年1月14日21時40分発行